

令和6年度 社会科 授業改善推進プラン

大田区立南蒲小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

(中)・基礎的な語句や語句の意味の理解の徹底を図ったことで、知識が身に付いた。また、体験的な学習は、理解を深め、表現することにもつながると同時に、社会的な事象に興味関心をもって主体的に活動に取り組むきっかけとなった。

(高)・資料等を読み取り、ノートにまとめる活動を増やすことで、自分の考えをまとめる力がついてきた。また、予想などを考えたり、発表したりする機会を多くすることで考えをもつきっかけをつくることができた。

(2) 課題

(中)・地図から情報を読み取ることはできるが、地図以外の資料から必要な情報をまとめる力は十分ではない。情報を集め、それらの情報から違いや傾向を考えるよう、指導する必要がある。

(高)・各産業に対して具体的にイメージをもつことができないことや、専門的な言葉を押さえることができていない。映像資料を活用したり、キーワードを押さえたりする必要がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第4学年	- 正答率が目標値や区の平均値を3～5ポイント下回っている。 - 領域別では、区の平均に対して「市の様子や移り変わり」が特に弱い。 - 観点別では、「知識・技能」の正答率が特に低い。	- 正答率が目標値や区の平均値を5～6ポイント下回っている。 - 領域別では、区の平均に対して「市の様子や移り変わり」が特に弱い。 - 観点別では、「思考・判断・表現」の正答率が特に低い。	- 正答率が目標値や区の平均値を下回っていることが多い。 - 領域別では、区の平均に対して「生産や販売」「地域や市の様子」「安全を守る働き」が弱い。 - 観点別では、「知識・技能」の正答率が低い。
第5学年	- 正答率が目標値や区の平均値を1～4ポイント上回っている。 - 領域別では、区の平均に対して「特色ある地域の様子」が弱い。 - 観点別では、「主体的に学習に取り組む態度」の正答率が低い。	- 正答率が目標値や区の平均値を1～5ポイント上回っている。 - 領域別では、区の平均に対して「伝統や文化、先人の働き」が特に弱い。 - 観点別では、「主体的に学習に取り組む態度」の正答率が特に低い。	- 正答率が目標値や区の平均値を3～7ポイント下回っている。 - 領域別では区の平均に対して「生活環境を支える活動」「伝統や文化、先人の働き」「特色ある地域の様子」が弱い。 - 観点別では、「社会的な思考・判断・表現」の正答率が特に低い。
第6学年	- 正答率が目標値や区の平均値を1～3ポイント下回っている。 - 領域別では、区の平均に対して「国土の自然などの様子」「国土の自然環境と国民生活」が特に弱い。 - 観点別では、「知識・技能」の正答率が2ポイント低い。	- 正答率が目標値や区の平均値を3～4ポイント上回っている。 - 領域別では、区の平均に対して「国土の自然環境と国民生活」が特に弱い。 - 観点別では、「知識・技能」の正答率が4ポイント高い。	- 前年度よりは3ポイントほど改善されてはいるが、正答率は目標値を10ポイントほど下回っている。 - 領域別正答率では、前年度より10ポイント改善されてはいるが、「国土の自然環境と国民生活」について目標値から11ポイントほど低い結果となった。

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・店ではたらく人や安全な暮らしについては理解できている。 ・地図や資料を読み取り、必要な情報を調べることに課題がある。	・体験活動を通して疑問に思ったことや分かったことを、自分の言葉で表現することができる。 ・資料から必要な情報を読み取り判断したり、表現したりする力に課題がある。	・自分たちが住んでいる町について主体的に調べることができる。 ・地図以外の資料を読み取ることに消極的である。 ・社会的事象について、自分の生活と結び付けて考えることに課題がある。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・都道府県の様子や、日本の工業生産についての理解ができている。 ・日本の水産業についての理解に課題がある。	・複数の資料から必要な情報を読み取る力に課題がある。 ・資料から情報を読み取り、考えたり、表現したりする力に課題がある。	・資料等を読み取り、自分の考えをまとめる力が十分ではない。自分の考えをもって授業に取り組むことが課題である。

3 授業改善のポイント（観点別）【◎は重点項目】

（1）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・町探検や模擬体験などを取り入れ、体験活動を通して情報を集めることができるようにする。 ・博物館や学校図書、インターネットなどを活用して映像、体験記など様々な情報を集めるようにする。	◎資料を積極的に活用し、必要な情報を読み取る時間を多く設けていく。 ◎資料を活用することのよさを伝え、相手に伝わるまとめ方ができるように指導する。	・学習の見通しをもって学習に取り組めるように、ねらいを明確にする。 ・身の周りのお店や、公共施設などを取り上げ、児童にとって社会的事象を身近に感じられる指導をする。

（2）高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・映像資料を活用したり、漁業別の生産量の変化と水産物の輸入量の変化のグラフを使用したりして、水産業について具体的なイメージをもちやすくする。	◎資料を活用し、自分の考えをまとめることを、それぞれの単元で意識的に設定する。	・インターネットや本などの資料から自分で目的意識をもって調べ学習を行い、お互いに発表し合う機会をつくる。